気候もすっかり暖かくなり、本日からいよいよ新年度の１学期が始まります。

昨年のことを考えれば、こうして今日学校生活をスタートできることは、この上ない喜びであり、気持ちも昂るところですが、隣県同様、山形県もまだまだコロナは収束の気配を見せていません。昨年前半に規制されていた様々な活動は、少しずつできるようになってきましたが、それはコロナに対するいろいろな対策が定着してきたからであり、コロナの状況が改善してきたからではありません。ちょっと油断すればまたすさまじいスピードで広がり、私たちの生活を脅かします。ソーシャルディスタンスや手洗い、マスク、活動時間の短縮などは今後とも一層厳守しなければならないことはもはや言うまでもありません。まだしばらくは様々な制限が出てきますが、そこは全員が理解して、その中でも置農生としてできることに前向きに取り組んでほしいと思います。

さて、１学期を始めるに当たって、１つ話をします。

皆さんも知っている通り、この置賜農業高校は置賜地区では２番目に長い歴史を持つ伝統校で、その中で数えきれない優秀な成果を上げてきました。先日、この置賜農業高校の卒業生で、JA 山形おきたまの役員の方にお会いした際、その方が山岳部でインターハイに出場した時の話を懐かしく話してくださいましたが、それで思い出した山登りの話です。

険しい山に何人かで登っているとき、体力も気力も限界に達し、「もうこれ以上は登れない。だめだ」と思ったとき、その状況を少し改善し、また昇り続けられるようになる１つの方法があるそうです。それはどんなことだと思いますか。ちょっと考えてみよう。

それは、他の苦しそうにしている人の荷物を持ってあげることだそうです。そうすると、どこにこんな力が残っていたんだ？と思うくらいスイスイ登れるようになるそうです。「なぜ？」と思う人がいるでしょう。それはこういうことです。人間は自分のことだけでなく、他人のためだとなると余計に頑張ることができる生き物なのだそうです。これはどんなことにも当てはまることではないでしょうか。

今、皆さんが困難に直面しながらも我慢して取り組んでいることが、自分だけでなく、世の中の人に勇気を与え、役に立っているのだということをいつでも頭に入れておこう。そのようなことをここで確認して第 1 学期始業式のあいさつとします。